

◎ 発行 中京大学  
〒466-8666  
名古屋市中区八事本町101-2  
■中京大学スポーツ編集局  
(スポーツ振興室内)  
TEL 0565-46-6935  
http://www.chukyo-u.ac.jp



# 中京大学スポーツ

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ



2013 (平成25) 年  
4月25日

第3号

# 「応援プロジェクト」始動



学生への調査は、現代社  
会学部の村上隆教授のセミ  
ナールに実施する予定だ。  
村上セミはナゴヤドームの  
技などを調査で探る。3月  
24日に豊田スタジアム(愛  
知県豊田市)で開催された  
中京大と明治大のサッカー  
交流試合でも、来場者を対  
象に調査をしている。  
こうした調査結果を基  
に、今後、有力大学のチー  
ムと対戦する「対抗戦」の  
設定や、学生たちが楽しめ  
る応援の方法なども検討さ  
れることになっている。  
3月のサッカー交流試合  
では、「応援プロジェクト」  
のテストケースとしての  
応援を大いに盛り上げ  
た。  
一方、スポーツ情報の発  
信では、本学公式サイト  
の「応援」欄に「応援に行  
こう」のバナーが4月に新設  
され、観戦の手引きとなる  
情報提供が開始された。ま  
た、選手たちの活躍する姿  
をとらえた写真が両キャン  
パスの一角で紹介されるこ  
とになっている。



学生ら多数が応援した豊田スタジアムでのサ  
ッカー交流試合(経済3 山本泰輔撮影)

## 観戦呼びかけ、対抗戦も検討

### 85% 「また参加したい」

#### 村上セミが会場内調査

村上セミがサッカー交流  
試合会場で実施した来場者  
調査(速報)によると、大  
学スポーツの対抗戦などの  
イベントに「また参加した  
い」と答えた人が全体の  
85.6%に上った。「あま  
り参加したくない」は3.  
1%、「わからない」は  
11.3%。一般客も含め大  
学スポーツの観戦に比較的  
関心が高いことがうかがえ  
る。調査は、会場入口など  
で用紙を配布し、スタンド  
で回収した写真。564  
人が回答し、有効回答の  
557人分を集計した。内  
訳は小学生90人、中学生49  
人、大学生208人、社会  
人その他210人。  
大学スポーツへの参加意  
思と、豊田スタジアム来場  
回数との関係はクロス集計し  
たところ、初めて来場した  
人の79.2%が「また参加  
したい」と回答。来場3  
5回は83.8%、来場11回  
以上は96.4%など、来場  
回数が多い人ほど大学スポ  
ーツを観戦したい気持ち  
が強かった。年代別では、小  
学生92.0%、社会人他  
90.8%、大学生79.4  
%、中学生77.6%の順に  
関心が高かった。  
一方、応援・観戦したい  
スポーツ(複数回答)は、  
学の話「調査から、大学  
スポーツが、地域の人たち  
や、大学生に教えられる見  
聞が多かっただけに、サッ  
カーがトップとなり、野  
球、バスケットボールが統  
一した。今後、より詳細な分  
析の試合と比べ、大学の試  
合の観戦希望がやや低い傾  
向が出ている。  
村上セミでは今後、集計  
結果の分析を進め、年内に  
実施する学内調査と併せ、  
「応援プロジェクト」を推  
進する方策などを検討する  
ことになっている。



## 世界選手権の栄光「ソチ」への飛躍

#### 世界選手権で3位となった 浅田選手の演技(フォー ト・キンモト提供)

### 浅田選手は銅 五輪準備5月から



フィギュアスケートの浅  
田真央選手(体育4)が、  
3月14-17日にカナダで開  
催された世界選手権で3位  
となり、3季ぶり4度目の  
メダル獲得となった。  
浅田選手は昨秋からのケ  
ランプリシリーズで3回優  
勝の圧倒的な強さを見せ  
た。浅田選手が武器にして  
いる高難度のトリプルアク  
セル(3回転半ジャンプ)  
は、3年前から修正を始  
め、「ようやく自分のもの  
になってきた」と実感してい  
る。  
4月上旬の世界別対抗  
戦でシーズンを終え、いよ  
ろ来年2月のソチ五輪  
「五輪最後の舞台で最高の  
演技ができればいいと思  
っています」。浅田選手の  
ソチを見据えた戦いが間も  
なく始まる。

## 伊藤選手2種目銀 「金をねらう」



ノルウェーの世界選手  
権で滑走する伊藤選手

世界選手権では、浅田選  
手のほか、村上佳菜子選手  
(スポーツ科1)が自己最  
高の4位、無良崇人選手  
(2012年度体育卒)が  
8位となるなど、本学園の  
選手が活躍した。  
今回は足首の怪我で出場  
できなかった小塚崇彦選手  
(体育修士2)は、その後  
順調に回復している。ペア  
に転向した木原龍一選手  
(スポーツ科3)も、ソチ  
から採用されることになっ  
ている団体戦出場を目指し  
ている。  
フリースタイルスキーの  
伊藤みき選手(2009年  
度体育卒、北野建設)が、  
1の世界選手権は2年に1  
回の、伊藤選手は09年大  
会に開催された世界選手権  
では2位になって以来のメ  
ダル獲得となった。

2月のワールドカップ  
(W杯)福島猪苗代大会で  
は、デュアルモーグルで初  
優勝した。シーズン最終戦  
となった全日本選手権(3  
月30、31日、富山県南砺  
市)でも、疲労がたまって  
いる中、2冠を達成し、自  
分の求める滑りに確信を持  
った。  
伊藤選手は「ソチ五輪で  
金メダルが目標」と、すで  
に4月15日から練習を再開  
している。

《関連記事2面》

## 清水選手、リレーで銅 メダルを獲得 目標に頑張る



スピードスケート・ショ  
ートトラックの清水小百合  
選手(2010年度体育  
卒、中京大職員)「写真  
は、世界選手権(3月8  
-10日、ハンガリー)の  
3000メートルリレーで銅メ  
ダルとなった。W杯3000  
メートルリレーでも4回表彰台に  
上がった。清水選手は、得  
意種目の個人500メートル  
を含め、「今後、ソチでメダル  
を獲得する目標に向けて頑張り  
たい」と話している。

# 地域貢献16クラブが参加

## 19クラブ前向きに検討

### 全46クラブ調査

中京大学体育会46クラブの3分の1にあたる16クラブが、子供のスポーツ指導など地域貢献活動に取り組んでいることが、スポーツ振興部の調査でわかった。現在は未実施のクラブのうち、19クラブは「依頼があれば受けた」と前向きな回答だった。今後、スポーツを通じた地域貢献が広がる可能性がある。

調査は、公認38団体の男 寺拳法、女子バレーボール、女別も含めた全46クラブを、各々が、小中学生らを対象に、大学以外の地域に、象に、それぞれの競技を指導している例を挙げても、導している。

16クラブの活動 大学の施設を使い、市民は、「教室」の開催が最も 水泳大会(水泳部)やアスリートカーニバル(陸上競技、アメリカンフットボール、技術部)といった地域向けイベントを開催しているケール、レクリエーション、体操、準硬式野球、少林 スもある。地域の大会など

## 子ども指導年200回 レクリエーション部 笑顔の交流



無償のボランティアが、でも大半が交通費相当だった。半数近くあり、有償の場合だ。

地域貢献活動を最も積極的に展開しているのが、レクリエーション部(川島旺洋主将)だ。豊田市や関連団体を通じて、体操教室の開催やキャンプの指導、

地域の運営などに取り組み、地域の子供達を楽しくさせる「写真」。

中でも、豊田市やみよし市の子供達と交流する「写真」。

市内の子供達と交流する「写真」。

市内の子供達と交流する「写真」。

## 伊藤選手 前向き姿勢



4月12日に本学を訪れ、北川学長(左)に戦績を報告する伊藤選手

モータールの伊藤選手は、2位で終えた時、伊藤選手は「もう1試合あったら優勝できる」と手応えを感じてきた。同時に、もっと練習したい、と思った。所属の北川中(右足首の靭帯3本のうち2本断裂する怪我を負った。全治3か月と診断されたが、2週間後にはスキー板をはき、雪上トレーニングも自分で試行錯誤した。

練習量の限界を知るまで続けた。週6日のペースで午前、午後とも練習し、疲れ過ぎて眠れない日もあった。7月下旬、トレーニング中に右足首の靭帯3本のうち2本断裂する怪我を負った。全治3か月と診断されたが、2週間後にはスキー板をはき、雪上トレーニングも自分で試行錯誤した。

練習量の限界を知るまで続けた。週6日のペースで午前、午後とも練習し、疲れ過ぎて眠れない日もあった。7月下旬、トレーニング中に右足首の靭帯3本のうち2本断裂する怪我を負った。全治3か月と診断されたが、2週間後にはスキー板をはき、雪上トレーニングも自分で試行錯誤した。

## 全治3か月 2週間で練習再開

おり、時には講師役を頼まれるほど。長年の実績が認められて、2005年の秋章を受章している。レク部

の褒章では、児童健全育成の活動は、地域の交流には欠かせない存在になっていく」と言われ、追い込み過ぎていた自分に気づいた。「自分を守るのも自分」。怪我をきっかけに、トレーナーとの絆を深めた。時差ほけの中、週1回開催されるハードなW杯転載のペースもつかんだ。

試合に臨む気持ちも変化した。「自分のいい滑りをするだけ」と割り切った。「今できる自分のパフォーマンスに集中し、勝ち負けは、結果としてついてくる」。勝った時は素直に喜び、負けた時は、相手をとたえる気持ちになった。

女子モータール界には、W杯通算36勝のハナ・カーニ選手(アメリカ)が君臨している。「彼女も負ける時がある。つけ入る隙が必ずある。ソチオリンピックは金メダルを狙う」。伊藤選手は打倒カーニを誓っている。《本文記事1面》

# 先輩NOW

中京大学の卒業生は、11万人を超えている。在学時代にスポーツで鍛えた経験や人間関係が糧となり、社会で活躍している人は多い。全国で、様々な分野で活躍する同窓生のスポーツとの関わりを紹介する。

「試合に勝つことよりも、子供たちの能力を最大限に引き出すことを第一にしています」

竹内監督は星城高校男子バレーボール部を率いて13年になる。昨年度は高校総体(8月)、岐阜国体少年男子(10月、愛知県選抜)、全日本高校選手権(1月、春高バレー)で優勝する3冠を達成した。だが、竹内監督は決して高校日本一を自慢げに語ることがない。「チームプレーを通じた人間教育」で選手たちと勝ち取ったことを誇りにしている。

竹内監督は、練習のメニューやスケジュールを生徒たちに考えさせる。選手たちの自主性を尊重しているからだ。「褒めて育てる、と言いますが、その言葉が子供たちの指導には合う」といい、滅多に怒らない。

## 自主性尊重 高校3冠

竹内裕幸さん 1996年中京大学体育学部卒。38歳。卒業後、母校の名電高(名古屋)でバレーボール部コーチを3年務め、99年に星城高校(愛知県豊田市)に移った。コーチを経て、2000年から監督に就任した。



星城高校のバレーボール部。中央が竹内監督

まい、自分からコート離れた。「退部させられてもおかしくなかった。今思うと自分が子供だった」。ボール拾いなどサポート役をこなすうち、逆にチーム全体のことを考えるようになった。「今思うと、その時の経験が今につながっている」

3冠チームの中心だった、石川祐希選手(現主将)と山崎貴夫選手は、全日本ユース代表になっている。石川選手は昨年10月のアジア選手権で最多得点したベストスコアラール賞受賞、山崎選手はパワースタールだ。全日本ユース代表のコーチも務める竹内監督は、「二人とも将来は、外国人と戦える人材です。大きく育てたい」と、さらなる飛躍を期待する。

優勝チームの要だった前主将の横井玲央選手は、中京大学に今月入学した。横井選手はチーム全体をまとめた。春高バレーで相手チームに先行された場面で見逃され、逆転勝利に貢献した。竹内監督の教え子が中京大学に新風を吹き込むのは間違いない。

## 体育会功労賞 個人50人と6団体受賞

体育会功労賞の表彰式が3月4日、豊田キャンパスで行われ、個人50人と6団体(97人)が受賞した。

個人は、ロンドン五輪に出場した陸上競技部の市川華菜選手(400mリレー)、中村明彦選手(400m障害)、山本聖途選手(棒高跳び)をはじめ、男子50歳自由形で日本記録を樹立した伊藤健太選手(水泳部)ら。団体は、全日本学生王座決定戦で優勝した男子ソフトテニス部、インカレ3位的女子ソフトテニス部、男子ハンドボール部などが栄誉に輝いた。

体育会会長の高橋繁浩スポーツ科学部教授は、「今年受賞できた方は、来年度も表彰されるように頑張ってください。表彰されなかった方は来年度表彰されるように、また後輩たちも続いていけるように頑張ってください」と激励した。夕方には、名鉄トヨタホテルで祝賀会が開かれ、約360人が、受賞者を祝福した。(現代社会3 工藤伸也)

## 名古屋―豊田キャンパス間バス

名古屋、豊田キャンパス間を往復するシャトルバスの運行が4月5日からスタートした。

資格、教員対策講座への出席や、体育会クラブやサークル活動に参加する学生の利便を図る狙い。シャトルバス運行により、キャンパス間の学生の交流拡大が期待されている。

シャトルバス用に、大型観光バス(62人乗り)を新たに導入。事前の学生アンケートに基づき、平日午後3時往復している。豊田市の貝津町に下宿し、名古屋の

公務員対策講座に通う現代社会学部の男子3年生は、授業目的以外の通学定期券の購入ができなかったため、「バス運行に感謝している」と喜んでいる。

4月上旬の時点で名古屋77人、豊田42人の学生が登録。また、1回の利用者が10人に満たないため、総務課では学生たちに利用を呼びかけている。また、シャトルバスは土日、祝日と休講期間中は、課外活動の遠征にも利用できるため、すでに夏休みまでの予約が殺到している。

# 期待の新鮮力

## 100名高校チャンピオン



### 川本武史選手

川本選手は、パワー中心の力強い泳ぎが特徴だ。昨年の高校総体1000m背泳ぎで54秒64の大会新記録で優勝している。前年に優勝した時よりも1秒28縮めた。大学に入り、ウエイトトレーニングを本格的に始め、「パワーを最後まで出し続ける泳ぎ」を追求している。

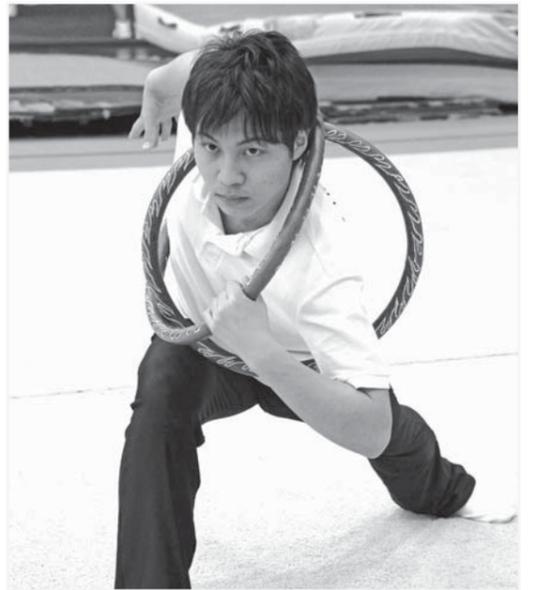
外の選手は手足が長く、ひとかきでかなり進むのを実感し、ストローク技術とパワーで対抗するつもりだ。草薙健太コーチらの指導を受け、水の抵抗が少ないフォームに修正している。

### 助走の速さが武器

#### 棒高跳び 堀田早人選手

持ち味は100mを10秒台で走るスピードだ。身長172cmと棒高跳び選手としては小柄ながら、助走の速さで推進力を得ている。中学3年の時、「空を飛んでいるみたいでカッコいい」と思っていたが、今は「簡単そうに見えるが、奥が深い競技です」と話す。

陸上競技部では、「先輩も優しいし、楽しくできる」と環境に慣れてきた。目下、踏み切りと踏み切りの練習を繰り返している。練習で5分30秒は跳べるようになってきた。今季はジュニア記録(5分50秒)の更新を狙っている。「聖途さんが目標です」。先輩の背中を追いかけていく。



### 高校総体連覇の実力

#### 白井優華選手

白井選手は、男子の新体操の魅力に「宙返りなどアクロバチックな動きの凄さがある」と話す。昨年の全国高校総体は、ノミスの演技で個人総合2連覇を飾るなど、実力は折り紙つき。動き全体がスピーディで、力強い演技が持ち味だ。

ラフで練習に励んだ。俊範さんは中京大の新体操部時代、全日本学生選手権で個人総合2位になったこともある。自分も実力を伸ばしつつ、指導者を目指したいと考え、本学に進学した。男子部員は白井選手を含め3人。団体競技には出場できないが、「マイナーな新体操をもっと広めたい」と語る。憧れの選手は、全日本選手権を2連覇し、現在シルクドソレイユで活躍する北村将嗣さん。白井選手は全日本選手権で昨年5位だったが、「今年は優勝を目標にしています」と語る。(現代社 会3 金原優香、写真も)

## 先生に聞こう



回答者 荒牧勇・スポーツ科学部准教授(解剖生理学、スポーツ脳科学)

質問 先生は怪我した時に病院で撮るようなMRIを使って脳のスポーツの関係を研究しているのですが、いったいどんなところがわかるのでしょうか。(スポーツ科学部3年 野中愛子)



スポーツや勉強など、我々が何かをする時には、脳の神経細胞が活動する。神経細胞が活動すると、その細胞の付近の血流が変化する。この血流変化は、磁場を利用して撮像するMRI画像の信号値を変化させる。この一連の過程を利用する手法が、機能的MRI (fMRI) である。

fMRIでは、ある課題で重要な役割を果たす脳部位が明らかになる。例えば最初の30秒間で特定の運動をし、次の30秒間は何もしていない安静状態をとる。合計60秒の間、MRIで3秒に一度のペースで脳画像を計測する。運動中と安静状態の脳画像10枚ずつを比較すれば、その運動をするのに重要な脳部位がわかる。

私はこれを利用して、巧みな運動を実現する脳の仕組みや、ある運動を行うために脳がどれだけ頑張る必要があるかを調べている。例えば現在、室伏広治准教授と一緒にやっている研究では、室伏先生の脳のどの部位が活動するかを調べている。fMRIを使えば、世界のトップアスリートがどのように脳を使っているかがわかるのだ。

また最近では、病院で撮るような脳のMRI画像を1枚撮れば、脳の形態・構造に関する詳細な解析ができる。陸上部の短距離選手と長距離選手の脳の形態・構造を比較すると、モチベーションに強く関連する「大脳基底核」という脳部位に差があることが、大学院生の原田健次との共同研究でわかってきた。

また、サッカーのリフティングを一生懸命練習すると、動いているものをよく見るための脳部位が発達することが、助手の大家利之との共同研究でわかってきた。つまり、脳のMRI画像を解析すれば、スポーツ種目ごとの脳の形態・構造の特徴を明らかにできるし、また、あるトレーニングをすると脳のどの部位が発達するかを調べることができるのだ。

HPに掲載した企画「新王将特集」もまた、私たち学生スタッフが取材しました。体育会46クラブにアポイントを取り、日程を合わせてインタビューし、写真も撮りました。直接話をすることで、主将の人柄がわかりましたし、そして何より、部活やチームメイトへの熱い思いを知ることができた。

### 学生スタッフ募集

中京大学スポーツ編集局は、学生スタッフを募集しています。お問い合わせは、スポーツ振興室(TEL 0565-46-6935)まで。

大学生活を送りながら、スポーツの競技や試合で活躍を目指す新1年生が、今年も数多く入学した。高校時代に全国トップの実績を残した選手たちもいる。その中から、背泳ぎの川本武史選手(豊川)、棒高跳びの堀田早人選手(東大阪大柏原)、新体操の白井優華選手(済美)(いずれもスポーツ科1)の3人を紹介しよう。

すでに海外での試合経験もある。高校2年でアジアエリート大会(インドネシア)優勝、高校3年ではジュニアパンパシフィック選手権(ハワイ)3位だった。「海

外」の新人が、新たに水泳部エースの一角を担う。(現代社 会3 山田翔子、写真も)



#### 新体操

白井選手は、男子の新体操の魅力に「宙返りなどアクロバチックな動きの凄さがある」と話す。昨年の全国高校総体は、ノミスの演技で個人総合2連覇を飾るなど、実力は折り紙つき。動き全体がスピーディで、力強い演技が持ち味だ。

ラフで練習に励んだ。俊範さんは中京大の新体操部時代、全日本学生選手権で個人総合2位になったこともある。自分も実力を伸ばしつつ、指導者を目指したいと考え、本学に進学した。男子部員は白井選手を含め3人。団体競技には出場できないが、「マイナーな新体操をもっと広めたい」と語る。憧れの選手は、全日本選手権を2連覇し、現在シルクドソレイユで活躍する北村将嗣さん。白井選手は全日本選手権で昨年5位だったが、「今年は優勝を目標にしています」と語る。(現代社 会3 金原優香、写真も)



中京大学スポーツの学生スタッフとして活動したこの1年は、驚きと感謝の連続でした。特に印象に残っている取材は、アメリカカンファレンス部の秋季東海リーグ戦です。最終戦の試合後、選手たちが「負けて悔しい」と、涙を流しながら私の質問に答えてくれました。その姿に、試合に懸けていた強い思いと部活に取り組む真剣さを感じました。

HPに掲載した企画「新王将特集」もまた、私たち学生スタッフが取材しました。体育会46クラブにアポイントを取り、日程を合わせてインタビューし、写真も撮りました。直接話をすることで、主将の人柄がわかりましたし、そして何より、部活やチームメイトへの熱い思いを知ることができた。

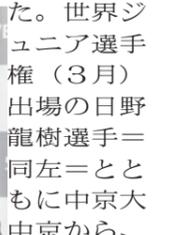
### 真剣さと感動伝えたい

#### 本紙スタッフの1年

中京大学スポーツの学生スタッフとして活動したこの1年は、驚きと感謝の連続でした。特に印象に残っている取材は、アメリカカンファレンス部の秋季東海リーグ戦です。最終戦の試合後、選手たちが「負けて悔しい」と、涙を流しながら私の質問に答えてくれました。その姿に、試合に懸けていた強い思いと部活に取り組む真剣さを感じました。

### 村上、日野選手も入学

フィギュアスケートの村上佳菜子選手=写真右=は4月1日の中京大学入学式に出席した。世界ジュニア選手権(3月)出場の日野龍樹選手=同左=とともに中京大から、スポーツ科学部に進学した。村上選手は、報道関係者の取材にも応じ、「スケートと勉強を両立させたい。友達もたくさん作りたい」と、大学生活への抱負を語った。《関連記事1面》



# 「全国」見すえ 好発進

団体競技の各クラブは、インカレなど全国大会で上位を目指し、東海地区の春季リーグで順調なスタートを切っている。昨年度は、6クラブが全国ベスト4以上を勝ち取っており、新チームも意気上がっている。チームプレーを掲げて戦うクラブの中から、1974年の全日本大学選手権優勝以来の「日本一」を狙う女子バレーボール部と、昨年の全日本学生選手権3位から「今年は決勝進出」を目標にする男子ハンドボール部の戦いぶりを追った。



静産大藤枝戦でスパイクを決める川島里華選手（現代社  
会3 金原優香撮影）

## 女子バレーボール部 春リーグ完全制覇を再び

女子バレーボール部は、4月13日に開幕した東海大学春季リーグ初戦で、静産大藤枝に3セット連取で勝利し、目標の「日本一」に向けて弾みをつけた。

東海リーグでは、昨秋1セットも落とさないう「失セットゼロ」の完全優勝を果たすなど4季連続で優勝している。中原貴典監督を昨年から迎え、筋力トレーニングを積極的に取り入れるなど、基礎体力向上にも務めてきた。エースの川島里華主将（体育4、九州文化学園）は、2年生の秋季リーグから連続で最優秀選手に選ばれ、現在、ユニバーシアードの代表候補にもなっている。

新チームは、昨年の先発メンバーからセッターを含む3人が抜けたため、まだ不安定なところがある。加えて、川島主将がユニバーシアード代表に選ばれること、東海リーグ中盤から西

日本インカレにかけて不在となり、「リーグ戦を通してどれたけ1年生が成長できるかが今後のカギとなる」（高梨泰彦部長）。

シーズン最初の公式戦となった静産大藤枝戦では、セッターに高田茉優選手（スポーツ科1、大阪国際滝井）を起用するなど、合流したばかりの1年生選手を積極的に投入し、息の合ったコンビバレーを見せた。中原監督は「1年生がよい働きをしてくれた。これから経験を積み、リーグ戦の雰囲気慣れていってほしい」と評価した。

川島主将は「相手を10点以下に抑えるというゲームプランが達成でき、自信に繋がった。ミスを減らし、相手に合わせない自分たちらしいバレーをしていきたい」と意気込みを語る。昨年に続く完全優勝で全国の舞台上に挑むつもりだ。（現代社3 松本彩花）

## 総合力で春全勝を目指す

### 男子ハンドボール部 最終目標インカレ決勝

男子ハンドボール部は、4月7日の春季東海学生リーグ開幕戦で愛教大に快勝し、2013年度の初戦を白星で飾った。「インカレ決勝進出」の大きな目標に向かって、今年度の一歩を踏み出した。

昨年度は、春秋の東海学生リーグで全勝優勝した。前年まで4年連続優勝だった夏の西日本インカレも優勝し、一つの壁を乗り越えた。秋のインカレでは3位と、11年ぶりにベスト4入りし、暮れの全日本総合選手権への出場も果たした。

中野創介主将（体育4、愛知）によると、個人技より全員でチーム力を高めてきた。中野主将は抱負を語る。今年度初の公式戦は、前半はわずか1点リードだったが、後半に入ると、足のややま止まった愛教大に対し、7連続得点するなど終盤は一方的な展開に持ち込んだ。船木監督は「相手がどんなチームかを見ながらゲームを進めることができた。普段から目の前の相手はどう来るかを考えている」と、硬さが出る初戦の試合内容としては合格点を与えた。まずは春のリーグ戦全勝優勝が期待される。



春季東海リーグ初戦の愛教大戦で、相手ゴールに攻める中京大チーム（現代社会2 吉田梨花子撮影）

## 式部 1部復帰へ快調滑り出し 硬野 負けたくない試合をしたい

愛知大学野球春季リーグの目つきも変わってきた。2部が開幕した。中京大硬式野球部は4月13、14日の同朋大戦に連勝し、1部リーグ復帰に向けて順調な滑り出しを見せた。

昨年の秋季リーグでは、2部入れ替え戦に臨んだが、愛産大の前に1勝2敗で涙をのんだ。このため今季に向けて、コーチを2人増員し、練習やオープン戦を通じて一つひとつのプレーをきっちりやることに主眼を置き、強化してきた。開幕カードは清水翔太投手（体育4、麗澤瑞浪）と山田卓也投手（体育4、麗澤瑞浪）の対戦。山田投手は「1部復帰を見据えている。開幕カードは清水翔太投手（体育4、麗澤瑞浪）」と表情を引き締めた。

山田投手は「1部復帰を見据えている。開幕カードは清水翔太投手（体育4、麗澤瑞浪）」と表情を引き締めた。



4年生の清水翔太投手は「全勝でリーグを勝ち抜き、入れ替え戦も制して、大学生活最後の秋は1部のマウンドを踏みたい」とラストチャンスに照準を合わせている。（現代社会2 岩月美奈、写真は吉田梨花子）

## 世界水泳に伊藤選手

### ユニバには4選手



水泳の日本選手権が4月11、14日、新潟県長岡市で開催され、本学関係の選手が世界選手権（7月28日〜8月4日、スペイン・バルセロナ）やユニバーシアード大会（7月6日〜17日、ロシア・カザン）への出場を目指して、力泳した。

世界選手権に日本代表として派遣されるのは、自由形の伊藤健太選手（体育学修士1、ミキハウズ）。大学院の試験と調整時期が重なり、練習が十分ではなかったが、50歳、100歳自由形で2位となり、世界水泳出場を決めた。

また、ユニバーシアードには、自由形の日高郁弥選手（スポーツ科2、島田）、平泳ぎの佐野

園をはじめ、背泳ぎの長谷川純矢選手（スポーツ科2、島田）、平泳ぎの佐野

中京大学のスポーツ情報 大学HPの「スポーツ」 (<http://sports.chukyo-u.ac.jp/>)、face book「スポーツ振興室」(左下QRコード)で紹介しています。「中京大学スポーツ」に関するご意見は、スポーツ振興室 (sports@mng.chukyo-u.ac.jp) へお寄せください。